

平成 27 年度 第一回生活支援・介護予防サービス推進協議会

平成 27 年 11 月 19 日 (木) 午後 2 時
新湊庁舎 302・303 会議室

意見交換

- 平成 26 年度から、地域振興会や地区社協、民生委員等の方にも参加していただきながら、地域で暮らしている人がどんな問題を抱えているか話し合う、地域課題会議という場を設けている。また、大門・大島地域には 6 地区社協があるが、連携して情報交換を行ったり、現在 4 地区で、介護予防事業（足腰コース、認知症予防等）を行っている。
- 地区、生活スタイル、人口、高齢者の数と、それぞれ全然違う。これまで、地域振興会の中で、それぞれのスタイルを比較することはなかった。まずは、動ける高齢者を集めて、地域包括ケアシステムの説明会を行わなければ、土俵作りにならない。今までのやり方では、どういう人が住んでいて、どういう人がつながっているのか実態が分からない。自治会単位で話し合いをして、地域の意識を醸成していくことが大切。
- 今日、召集された意義は二つである。①法改正への手立て（今後なくなる要支援枠の人に対する支援について）②団塊の世代が 75 歳を迎える 2025 年問題について。担い手不足のため、産業も企業も続かない。困ったところだけ「まちづくり」として検討するのではなく、未来を見据える対策が必要。現在は、福祉のことを全て民生委員に丸投げする時代ではない。近所の助け合いが大切。行政は、その意識改革が重要である。
- 地域課題会議を行った地域と、行っていない地域は全然違う。地域課題会議を行った地域では、地域の中で移送車両が足りないという課題が上がった時に、福祉車両を持っている人がいるから、と地域から支援の手が上がっている。地域課題会議を行っていない地域では、自分たちの問題が何か、分かっていない。
- 地域に暮らすのは、高齢者だけではない。市や社協も活動計画を合わせて、足並みをそろえる必要がある。今回の会議は、風穴を開けるものである。
- ホームヘルプに入る家には、十人十色の問題がある。街中で暮らしている買い物難民、親戚縁者が近くにいないなど、様々である。雪かき等も、近所の支援で行われている地区もあるが、雪かきしてくれる人も高齢化しており、支援の手からこぼれている人もいる。また、ホームヘルパーとして活躍している人も高齢者である。自分の生きがいとしてだけでなく、現金収入として大事な仕事であるので、金銭面の問題もある。
- 福祉が全て、無償であるという時代ではない。賃金はもちろん大切である。
- 老人クラブでは、訪問介護リーダー研修というものがあり、年 4 回参加している。また、それぞれの班長さんが、月に 1~2 回（年間 10~15 回）も、必ず 1 件 1 件訪問し、

書類を渡してくれるなど、自発的に行ってくれている。見守りや、現状の確認という意味でも、こうした人材が大切なのではないか。

- シルバーの会員は、年々減少しており、特に女性会員が少ないのが切実な問題である。現在、会員の平均年齢も73歳に届きそうで、会員確保が問題である。地域振興会の会議に参加させてもらい、会員募集を募っているが目に見える成果は出ていない。
- 現在、どこの企業も労働力不足、後継者不足に頭を悩ませている。ただですら、人材不足を感じているのに、家族に介護の必要性が出たら、離職につながる。そのため、重度の介護者を減らす、この総合事業には期待したい。
- 第2層協議体は、非常に重要だと思っている。
27 地域振興会内でも、相当の温度差があるため、まずは振興会内で横の連携を深めて、それから5包括に、と進めて第2層協議体を作るべきでは。
- 第二層協議体が非常に大切であることは同感であるが、包括職員をコーディネーターにあてるとすると、職員配置が少なく、人員不足が否めない。そのため、第3層協議体についても、考えていかなければならない。
- 自分の住んでいるところに、元看護師、元教員、元保健師等の経歴を持った人がいる情報をご存じだろうか。こうした情報は非常に大切である。福祉のことで、マネジメントできる人を見つけることが会長や協議体の仕事ではないか。